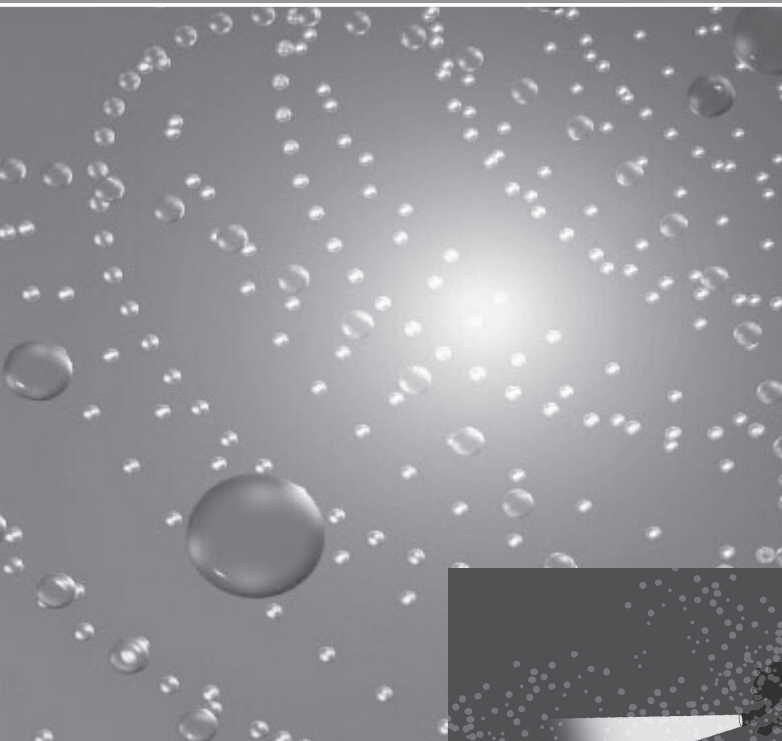


Night Diving Speciality



大人の夜遊び教えます

ナイトダイビングスペシャルティコースでは、神秘的な夜の海に訪問する方法をマスターします。

夜の海では魚が寝ていたり、エビなどの夜行性生物が歩いたり、夜光虫が水中でキラキラ輝いていたり、初めて見る世界に感動することでしょう。

ちょっと暗いけれど、水中ライトを持っていれば大丈夫。

お化けはいないから、心配しないでね！？



認定カード

この講習を修了すると、ナイトダイビングスペシャリティーカードを取得することができます。

この認定カードは、あなたがナイトダイビングに関する十分な知識や技術を持つことを証明することができます。

ダイビングにでかけるときには忘れずに持っていきましょう。



ナイトダイビングスペシャリティー認定カード

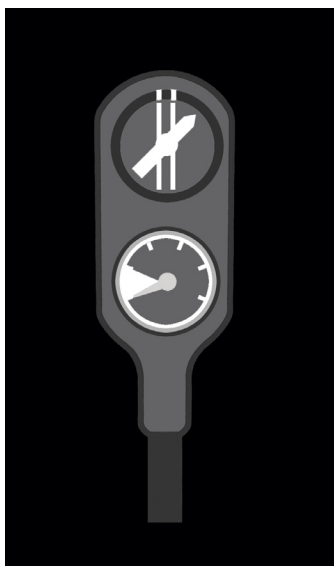
器材

ナイトダイビングや視界不良ダイビングでは、通常の器材の他に特別な器材を必要とします。

必要な器材の準備を万全にし、扱い方について慣れ親しんでおきましょう。

■ゲージ類

暗いところでも数値が読み取りやすい
夜光性目盛りのものを選びましょう。

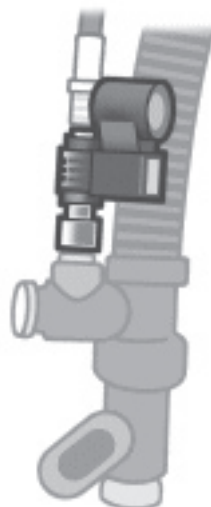


■ホイッスル・ホーン

BC に装着しておきます。

夜間は水面でも視界が限られています
ので、緊急時にはホイッスルやホーン
を使用して自分の存在を知らせましょ
う。

声が届きにくい遠いダイバーに対しても有効です。



■メインライト／バックアップライト

ライトはナイトダイビングや視界不良ダイビングで最も重要な器材です。

単に生物を観察するだけではなく、ハンドシグナルの代用としても使えます。

ダイビング中の衝撃や水圧に耐えることのできるダイビング専用のものを使用しましょう。

手で持つタイプの全てのライトには、手から離してもすぐに持ち直すことができる長さのリストストラップを装着します。

メインライトはダイビング中に使用する、手で持つタイプのライトです。

バックアップライトはメインライトが故障したときに使用する、手で持つタイプの予備のライトです。

バックアップライトは小型のもので携行にかさばらないものが良いでしょう。

ライトの照射範囲と光の強さは製品により異なります。

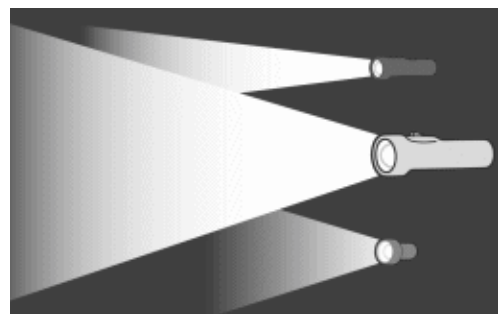
できるだけ、照射範囲が広く遠距離まで光が届くライトをメインライトとして使います。



メインライト



予備ライト



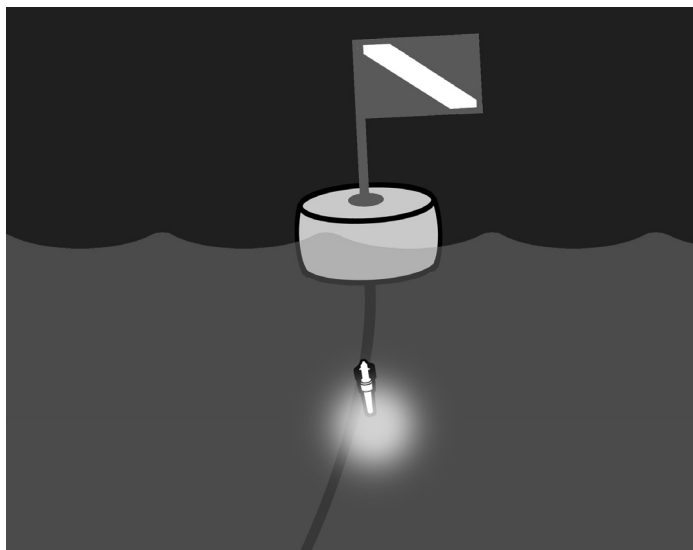
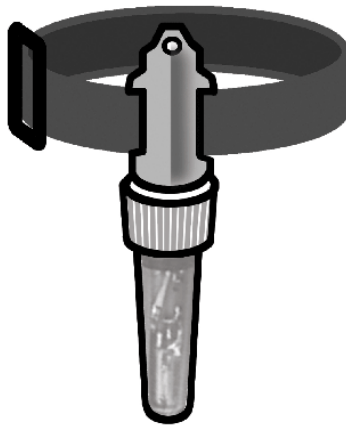
照射範囲と光の強さはいろいろ

■ストロボライト

カメラのストロボと同様の強い光が一定間隔で点滅するライトです。

通常ダイビングリーダーが装着し、その存在をメンバーに知らせます。

また、水面マーカースイに設置し、それらの位置をわかりやすくするために使用します。



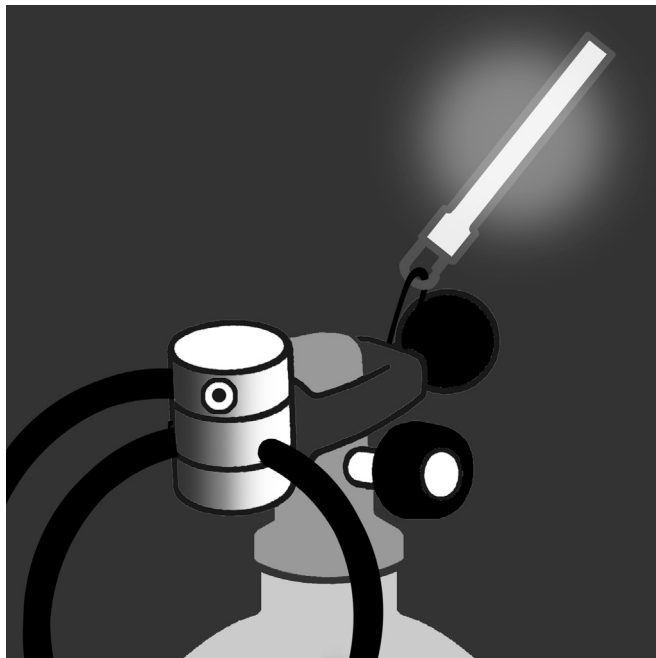
ストロボライトは水面マーカースイにつけましょう

■マーキングライト

レギュレーターファーストステージに取り付けて、他のダイバーに自分の位置を知らせます。

電池式のものもありますが、通常は化学反応で発光する電池不要の使い捨てのケミカルライトを使用します。

最近のケミカルライトには、いろいろなカラーバリエーションが準備されていますので、ダイビングチームの最後尾や初心者には他のダイバーと異なる色のものを使用することもできます。



ケミカルライトはファーストステージにつけましょう

■水面用ライト

ナイトダイビング用の照明器具を完備していないボートやビーチでは、水面用ライトを使用しなければ、夜間のダイビングを行うことができません。

水面用ライトはその付近を明るく照らすので、夜間のダイビングの準備に必要です。

また、ダイビング中には常に点灯しておき、ダイバーが水面からエキジットポイントを確認できるようにしておきます。

電池式のものに比べて、故障の少ないガスランタンが最適です。

また、代用として車のヘッドライトを使用することもあります。



ガスランタンが最適

■潜降ロープとコースロープ

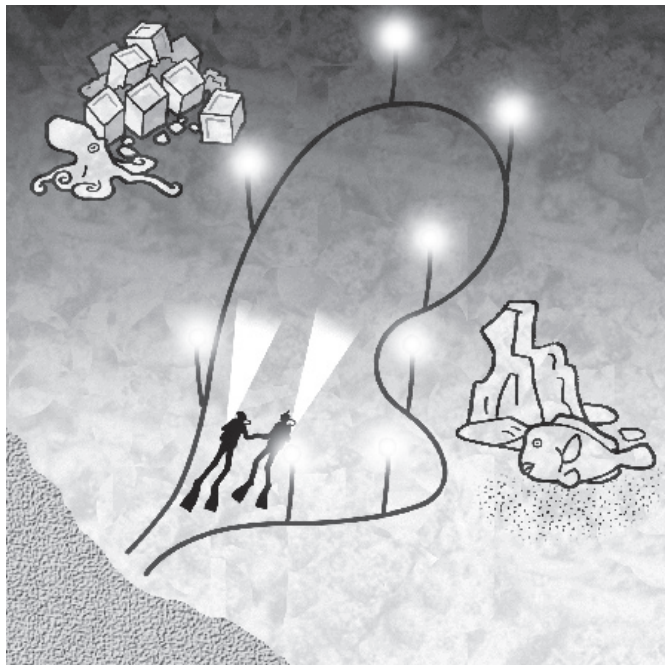
初めてのナイトダイビングや視界不良ダイビングでは不安があるものです。そのような不安を取り除くために、潜降ロープやコースロープを使用することがあります。

コースロープは 3mm 程度の太さのナイロン製ロープを使用します。

コースロープを設置する場合には、設置中のロープが水中で体に絡まないように、陸上でロープをダブルチェーンで巻き取っておき、ロープの長さ短くして水中に持って行きましょう。

コースロープを設置したら、ケミカルライトをコースロープに結んで発光させましょう。

ナイトダイビングの潜降用ロープやコースロープの設置は、暗闇でロープがダイバーへ絡んでしまうことがないように、日没の1時間以上前までに完了するようにしましょう。



コースロープを設置すると安心です

プラン

ナイトダイビングは、昼間のダイビングを経験しているダイビングポイントで行います。

器材の点検、準備、潜降用ロープやコースロープの設置は明るいうちに完了できるように計画しましょう。

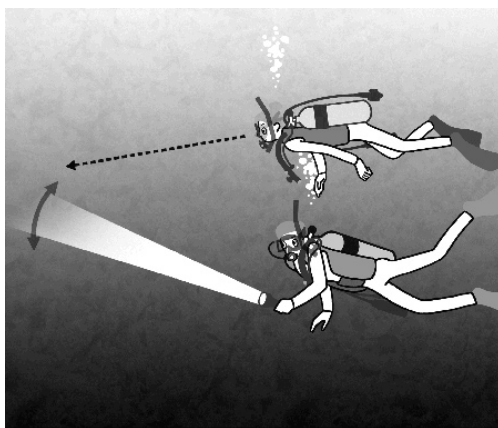


準備は明るいうちに

ハンドシグナル

自分のバディや他のダイバーに合図を送りたいときは、水中ライトの光をダイバーの体やダイバーの視界に向け、光が小刻みにふるえるように水中ライトを振りましょう。

それでも気が付かない場合には、バディの腕にさわり合図をおくりましょう。ダイバーのフィンで頭をけられないように、ダイバーにさわる時には足にさわらないようにしましょう。



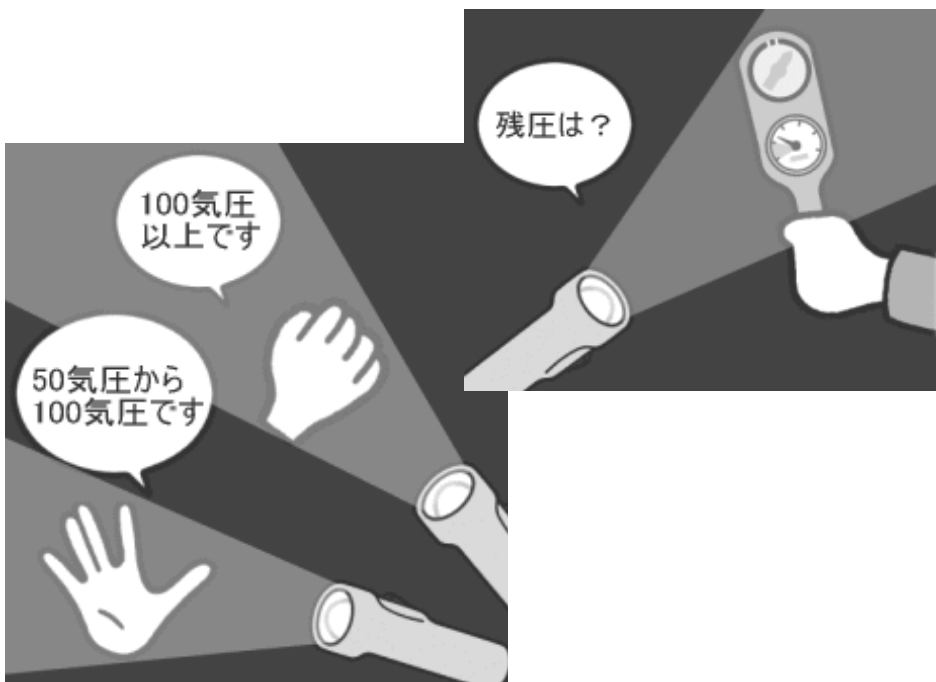
水中ライトの光をダイバーの視界に向けて水中ライトを振りましょう

ナイトダイビングのハンドシグナルでは、水中ライトの光を自分の手に当てます。となりに人がいる場合などは、あやまってとなりの人の顔に光が当たってしまわないように、自分の胸にライトの光を当て、胸の前でハンドシグナルを出すこともあります。

ダイビング前に片手のハンドシグナルについて打ち合わせをしましょう。また、水中ライトの光をハンドシグナルの代わりに使用することもあります。



OK ですか? / OK です



マナー

ダイビング中は、水中ライトの光を自分の目にあてたり、他のダイバーの目にあててはいけません。強い光が目にはいると、しばらく目が見えなくなります。

ナイトダイビングでは、岩に身を寄せて寝ている魚を見ることもできます。寝ている魚に手で触れるなど、驚かさないよう注意しましょう。



まぶし〜 ライトを顔に向けないで

ナイトダイビングの手順

■水面用ライトの設置

ナイトダイビングでは、エントリーポイントに、光を 360 度照射する水面用ライトを設置して点灯させます。

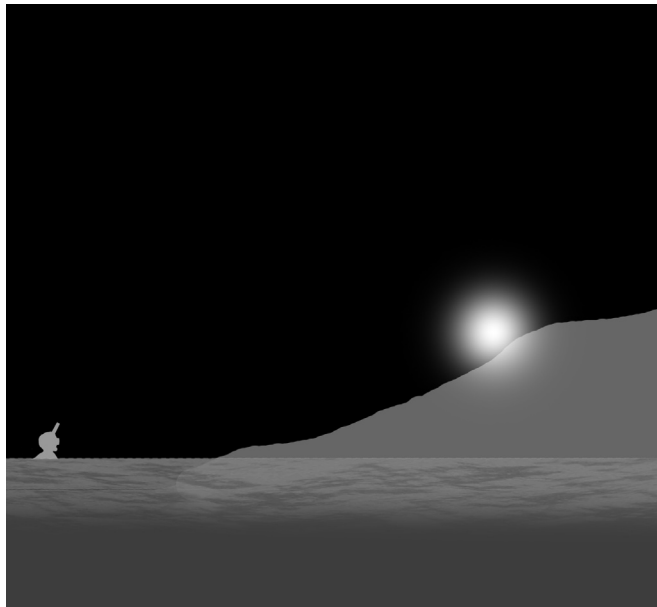
水面用ライトを 2 個用意し、沖からライトを見たときにエキジットの場所がわかりやすいように、それぞれのライトの高さと岸からの距離を変えて設置します。

沖から見たときに、樹木などがライトの光をさえぎらないような場所に設置しましょう。

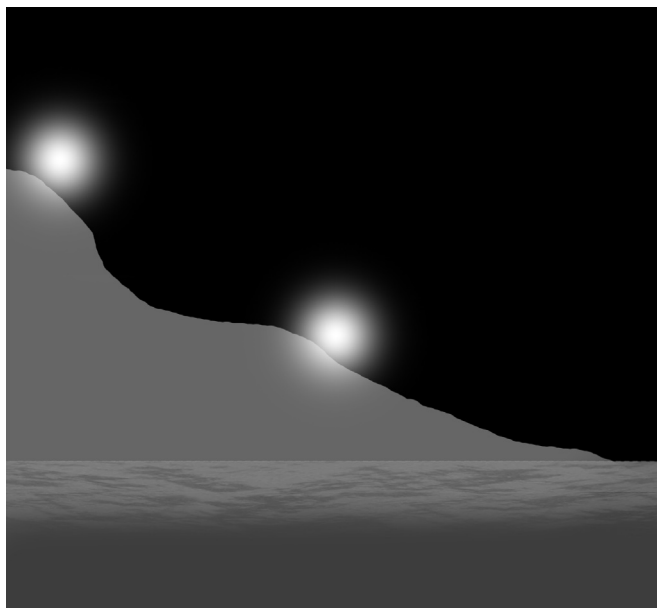
海面から見える 2 つのライトの位置関係によって、エントリーポイントに対してどの方向にいるか確認できます。



エントリーポイントを正面から見た場合は、2 つの光が直線上に見えます。



エントリーポイントを右から見た場合は、右に見える光が高い位置に見えます。



エントリーポイントを左から見た場合は、左に見える光が高い位置に見えます。

■エントリー

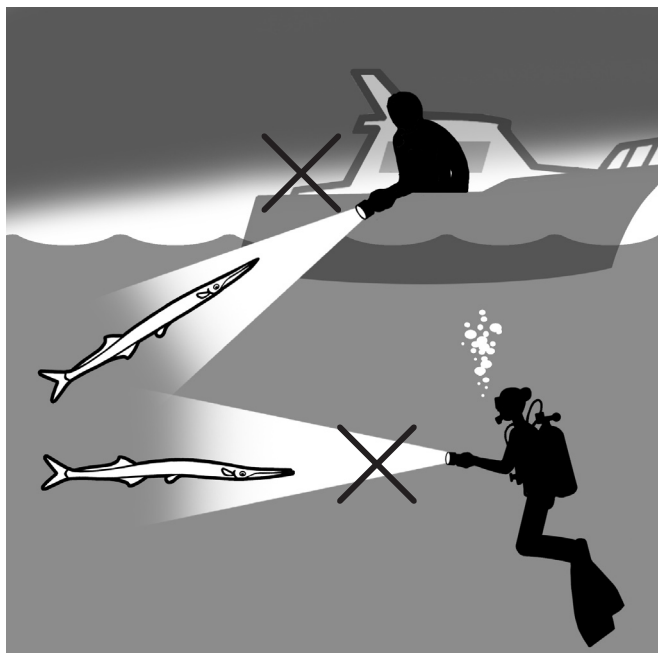
全ての水中ライトやストロボライトを点灯して、異常がないことを確認しましょう。

水中ライトで、エントリーポイントに流木などの障害物がないか、波の大きさや周期などを確認しましょう。

エントリーしたら、チームリーダーのまわりに集合しましょう。

光に突進する性質を持つダツの頭は、ナイフのように鋭くなっています。ダツのいる水域で水中ライトを使用する場合は、海面で水中ライトを水平に向け
てはいけません。

また、ボートや陸上から海面を照らすのは絶対にやめましょう。



ダツに注意

■潜降

潜降時には、潜降用のロープを利用して、海底の目標（チームリーダーのストロボライト等）に集合しましょう。

ダイビングチーム全員が同時に潜降せずに、決められた順番で潜降しましょう。ナイトダイビングや視界不良ダイビングで全員が同時に潜降すると、チームリーダーはチーム全体の安全管理ができず、安全で楽しいダイビングの提供が困難になります。

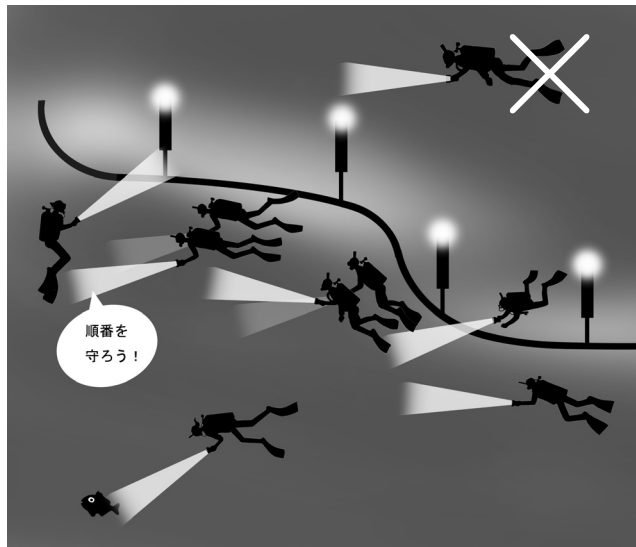
着底前に、海底にガンガゼやエイなどの危険な生物がいないことを確認しましょう。



潜降ロープから決められた順番で潜降しましょう

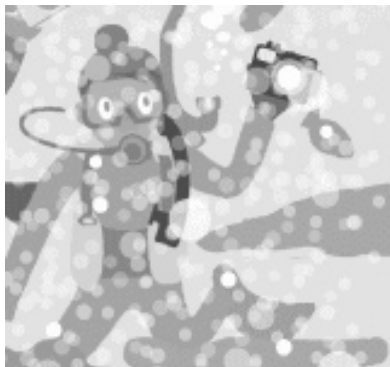
■水中移動

水中で全員が集合して、残圧や安全の確認をしてから移動を開始します。
 コースロープに沿って移動を行う場合には、前のバディを抜かしたり、コースロープから離れた場所に自分勝手に移動してはいけません。
 また、コースロープにはケミカルライトが設置されていますので、これらのライトをはずしてはいけません。
 ケミカルライトには触れないように注意して移動しましょう。



ロープに沿って移動しよう

視界不良ダイビングでは、プランクトン等の水中の浮遊物が水中ライトの光をさえぎります。これをハレーションと呼びます。
 ハレーションがおきる場合は、水中ライトの光を上または横から照射することにより、それを解消することができます。



ハレーションはこんな感じに見えます

■浮上

浮上時には、浮上速度に注意して、潜降用のロープで浮上しましょう。

ダツのいない水域では、水面に水中ライトの光を向け、水面のダイバーやボートに浮上場所を知らせます。

ナイトダイビングや視界不良ダイビングでは、目測による浮上速度の調整が困難な場合もあります。

そのような場合には、水中ライトの光を排気の泡にあてて浮上速度を確認したり、ダイブコンピューターや深度計を確認しながら注意深く浮上しましょう。



水面の浮上場所にライトを向けましょう

■緊急時の対策

メインライトが故障した場合にはバックアップライトを使用しますが、バックアップライトでダイビングを続行してはいけません。

チーム全体でエキジットポイントに向けてすみやかに移動を開始し、ダイビングを終了します。

バディやチームを見失った場合には、その場所で自分の水中ライトの光を手でふさぎ、海底や水面も含めてバディやチームの水中ライトやケミカルライトの光を広い範囲でさがします。

水中ライトの光を広範囲に照射するのもいい方法です。

透視度が良ければ、水中ライトの光は水面まで届きますので、海底だけではなく、中層や水面に向けて照射することも大切です。

バディやチームがこちらに気が付くかもしれません。

それでもバディやチームを発見できない場合には、事前に打ち合わせた緊急手順に従ってエキジットします。



あ、あそこだ

■発行 スターズ本部
東京都文京区本郷2丁目26番14号
電話 03-3818-6028

■初版発行 2010年6月

※本紙掲載記事、写真、イラストの無断転載をお断りいたします。